

令和4年度 第1回 宇治田原町総合教育会議

○日 時：令和5年3月24日（金）午後3時30分から午後4時30分

○場 所：宇治田原町役場 1階 101、102会議室

○議事内容 1. 開 会

2. 町長あいさつ

3. 協議事項

(1) 令和4年度宇治田原町教育委員会の取組について

(2) その他

4. 閉 会

○出席者 町長	西 谷 信 夫
教育長	奥 村 博 巳
教育長職務代理者	大 嶋 良 孝
教育委員	杉 野 三千代
教育委員	川 崎 文 男
教育委員	播 磨 幸 博

<事務局>

総務担当理事	奥 谷 明
教育委員会教育次長兼学校教育課長	黒 川 剛
総務課長	青 山 公 紀
総務課課長補佐	西 尾 岳 士
総務課庶務人事係長	松 原 慎 也
教育委員会学校教育課課長補佐	杉 浦 恒
教育委員会社会教育課生涯学習推進本部次長	馬 場 浩
教育委員会社会教育課課長補佐	岡 崎 貴 子
教育委員会学校教育課教育総務係長	星 野 聖 美

○青山課長 皆さん、ご出席賜り、誠にありがとうございます。

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和4年度第1回ということで、宇治田原町総合教育会議を開催させていただきます。

本会議につきましては、宇治田原町審議会等の活性化指針に基づき公開としており、事前に会議開催日時を町ホームページにおいて告知の上、傍聴を希望する方に対して傍聴を認めることとしております。なお、ただいまのところ、事前に告知させていただきましたけれども、本日の傍聴希望がなかったということで、ご報告をさせていただきたいと思います。

なお、本会議につきましては、会議録を作成し、町ホームページにて公表する予定としております。

また、報道機関による取材等を受けた場合には、会議結果、概要等について情報を提供させていただくこととしておりますので、各委員におかれましてはご了承いただきますよう、よろしくお願いいたします。

本日の会議は、お手元にお配りさせていただいております次第に沿って進めてまいりたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、ここでまず開会に当たりまして、西谷町長よりご挨拶を申し上げます。

○西谷町長 皆さん、改めまして、こんにちは。

本日は大変気温が高うございまして、田原川の桜、これにつきましてもかなり咲き始めているというところがございます。また、これから本町では田植え、また基幹産業であるお茶の生産ということでございまして、特にお茶につきましては、気温が高うございましたから、萌芽生育が早くなり、そういった中でまた、霜の被害がないように、大変それを願っているところでございます。

また、小学校の卒業式にはご出席を賜りまして、誠にありがとうございました。

本日は、総合教育会議をご案内申し上げましたところ、皆様方には大変お忙しい中ご出席を賜りまして、誠にありがとうございました。また、平素は本町の行政の推進に、とりわけ教育行政の推進につきまして、ご理解、ご指導を賜っておりますこと、この場をお借りいたしまして厚くお礼を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症につきましては、令和元年12月、中国で初めて報告されてから、世界的な流行があったところでございまして、日本でもこれまで多くの方の罹患者が確認されました。そのような状況を受けて、本町でも新型コロナウイルス感染防止対策ということで、ワクチン接種の集団接種、またマスクの着用等、基本的な感染症防止対策を徹底してきたところでございます。

この新型コロナウイルス感染対策のために3年以上続いたマスク生活についても、去る3月13日から緩和に向け、マスクの着用は個人の判断に委ねることとなりまして、

5月8日からは現在の2類感染症から5類へと見直しが見込まれているところでありまして、ようやくコロナ禍前の日常生活が取り戻せることと期待をしておるところでございます。一方で、各学校においては、マスクをつけるかつかないかでいじめや偏見が生じるおそれもあることから、注意啓発をしてまいりたいというふうに考えておるところでございます。

さて、本日の総合教育会議につきましては、令和4年度宇治田原町教育委員会の取組についてを中心に協議をいただきたいと思いますと考えております。

この総合教育会議につきましては、首長と教育委員会の意思疎通はもとより、教育課題を推進すべき教育施策の方向性等の協力など、より一層連携した教育行政を推進していくための貴重な機会と捉えておるところでございます。実りある会議にしてまいりたいというふうに考えておりますので、委員の皆様におかれましては、ぜひとも忌憚のないご意見等々を賜りますよう心からお願いを申し上げます。開会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

○青山課長 ありがとうございます。

それでは、本日お配りしております資料の確認をさせていただきたいと思います。

まず1枚目、令和4年度第1回宇治田原町総合教育会議の次第、表裏、裏面にそれぞれ各出席者の方の名簿がついておるものが1枚でございます。それと、令和4年度宇治田原町教育委員会の取組ということで、ホチキス留めのもの1つということで、この2つとなっております。漏れ等ございませんでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、早速ではございますけれども、協議に入ってまいりたいと考えております。円滑な意見交換のため、これまでと同様に、本日の議事進行を私、事務局の総務課、青山と言います。進めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

それでは、着座にて進めさせていただきます。

まず、最初でございます。本日の協議につきましては、お配りさせていただいております資料、次第のとおり、協議事項(1)令和4年度宇治田原町教育委員会の取組について、そして(2)その他ということになっております。

まず、1つ目に協議事項、令和4年度宇治田原町教育委員会の取組についてということでご説明をさせていただきたいと思います。事務局のほう、よろしくお願いいたします。

○黒川教育次長　ご苦労さまでございます。教育次長の黒川でございます。よろしく願いします。

着座して失礼します。

それでは、お手元でございます令和4年度宇治田原町教育委員会の取組につきまして、ご説明を申し上げます。

1ページをめくっていただきたいと思います。

本ページのまとめにつきましては、教育委員会で定めております教育の重点に基づきまして構成しております。教育委員会の定例会でもご協議をさせていただいたものでございます。

1ページ目でございます。

まず、本町の教育の重点の目指すべき教育、「人がつながる 未来につながる まちづくりの教育」を示し、3つの「育てたい子ども像」——「未来に向かって学ぶ子」、「人とのつながり（絆）を大切にする子」、「誇りを持ってふるさとを語れる子」の位置づけをしております。

それでは、各項目につきまして概略をご説明申し上げます。

まず、学校教育の分野でございます。

1番目といたしまして、「豊かな学びの創造と豊かな学力の育成」では、4つの視点を挙げております。

学習意欲の向上につきましては、4年度に新たにA Iドリルを生徒児童のタブレットに導入いたしまして、個々の理解度に合わせたドリルに取り組めるようにし、小・中学校の授業で活用することにより、学力の定着、向上に取組をいたしました。

基礎・基本の定着では、4年度新規事業でオンライン式による個別支援事業を実施しております。小学校5年生、中学2年生を対象に、定員70名で実施する予定でしたが、授業開始前の意向調査で定員を下回りそうと、そういった状況でございましたので、対象学年をそれぞれ2学年に増やし、取り組みました。しかしながら、最終的な申込みにつきましては、受講者は小学生で9名、中学生で6名と、定員を大幅に下回ってしまいました。保護者の話をお聞きしますと、短期間で15回の講義はスケジュール的に厳しかったといった意見もございまして、新年度は実施方法について改善が必要というふうに感じているところでございます。

きめ細かな指導では、町独自の学力充実、学力支援加配教員を配置し、個別支援に取り組みました。また中学校でも試行となりますけれども、巡回・通級指導を小学校の通

級指導教員が行う取組を今年度から実施したところでございます。

英語教育の充実では、今年度も維孝館中学校生徒の受験補助をしております。4級以上の合格者数は書いてございますように、101名となりました。卒業時における3年生の取得率は90.5%となっております。まち・ひと・しごと創生総合戦略に定めております目標、令和6年度90%につきましてはクリアいたしました。

続きまして、2ページをご覧ください。

2、「豊かな人間性や健やかな身体の育成と多様性の尊重」では、6つの視点を挙げております。

キャリア教育では、3年ぶりに職場体験を行い、町内18事業所に59名の生徒が参加いたしました。

伝統と文化の継承では、本町にゆかりのある永谷園によるお茶漬けを通した食育事業を実施いたしました。

スポーツ・文化芸術活動の推進では、中学校部活動地域移行に向け、学校、指導者などの関係者による事前協議を2回、PTAや学校、スポーツ関係者から成る企画委員会を開催し、課題と今後のスケジュールについて協議いたしました。

続きまして、3ページ目でございます。

3、「学びを支える教育環境の整備・充実」では、4つの視点を挙げております。

いじめ・不登校対策では、スクール・カウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカーによる心のケア、相談支援を児童生徒及び保護者に対して実施し、112件の実績があります。現時点におきまして、いじめの重大案件は発生していない状況でございます。

学校施設の整備では、小・中学校のトイレ洋式化工事を行いまして、全体で28.8%から77.3%へ洋式化を進めたところでございます。

経済的に困難な環境にある子どもへの支援では、コロナ禍で厳しい経済状況の中、小・中学校給食費2・3学期分を全額補助しました。そのほか、経済状況の厳しい家庭に対しては就学援助を行うほか、修学旅行支援、高校生通学費補助を実施しております。

続きまして、4ページをご覧ください。

4、「学校・家庭・地域の連携・協働と小中一貫教育の充実」でございます。こちらは4つの視点を挙げております。

9年間の連続性のある指導では、小中一貫教育推進のための取組であり、9年間を見通したカリキュラムの作成や、町内教職員研修、中1ギャップ解消のための取組を行いました。

魅力ある学校づくりでは、宇治田原町ならではの取組として、お茶にまつわる教育や商品開発、永谷園による食育教室など、魅力ある学校づくりのための事業を展開いたしました。

開かれた学校づくりでは、学校教育に地域の方々のご協力を得て、講座の実施や授業展開を図った取組を行いました。

続きまして、5ページでございます。

5、「教職員の資質向上を図る取組の充実」では、2つの視点を挙げております。

教職員の使命と責任の自覚では、学校における諸課題については、チーム、複数での対応を徹底し、児童生徒や保護者への適切な対応を試みておるところでございます。

教職員研修では、大学名誉教授による授業展開へのアドバイスや全体研修を実施し、教職員の技能向上に取り組んだほか、若手教員向けの研修、町教委、山城教育局による計画訪問により資質向上に向けた取組を行いました。

続きまして、6ページ、社会教育の分野でございます。

まず1つ目、「住民一人一人の生涯を通じた学習支援」では、2つの視点を挙げております。

多様な学習情報・学習機会の提供では、コロナ禍で思うように事業が実施できない中でしたけれども、4年度後半からは徐々に事業を展開し、子どもから高齢者までの生涯福祉に取り組みました。

2、「連携・ネットワークによる生涯学習の推進」では、2つを挙げております。

生涯学習の施策、仕組みづくりでは、生涯学習推進計画を策定し、生涯学習事業の体系づけを行い、今年度中には全庁的な取組をまとめることとしております。

3点目、「人と地域がつながる生涯学習のコミュニティの形成」では、2つの視点を挙げております。

地域社会の教育力の向上では、社会教育委員会において地域学校協働活動推進に向けた調査・研究を行い、新年度には取りまとめを完了していく予定でございます。

ボランティア活動の充実では、まちの名人をはじめ、町内におられる様々な人材のご協力の下、食育、健康づくり、クリエイトなどをテーマとした授業に講師として活躍いただきました。

7ページ目でございます。

4番目、「健康で豊かな心身をはぐくむ生涯スポーツの推進」では、1つの視点を挙げております。

スポーツを支える指導者の養成、ボランティア体制の充実では、スポーツ推進員による出張スポーツやシルバーオリンピックなどの活動を展開するとともに、指導者育成にも取り組みました。

5点目、「文化財の保護と意識の普及・啓発」では、2つの視点を挙げております。

文化財などの保存継承・住民への周知では、広報紙を活用し、町内に文化財を広くお知らせする取組を行いました。

奥山田化石公園運営では、利用促進に向け人材育成の取組を行うほか、化石発掘体験教室を開催いたしました。

以上が取組のほうでございますが、もう一枚めくっていただきますと、参考として資料をつけさせていただいております。

小・中一体隣接型の施設整備につきましては、改めて整備時期をお示しすることとなりましたけれども、愛称「維孝館学園」の下、町内3小・中学校、教育委員会が小中一貫教育推進に関する様々な取組を行ったことについてまとめたものでございます。

最終ページの維孝館学園小中一貫教育推進体制及び活動概要等とした表をご覧ください。横長のものがございます。

こちらは、「タブレットPC等の積極的な利活用により学力向上を目指す」を活動方針に定め、小中一貫部会（学園企画部会）でございますけれども——を中心に据えまして、11部会、カリキュラムマネージャー部会、教頭部会、小小連携部会のほか、下に書いてございます11の部会を設置し、小・中学校、また小・中学校の全教職員がいずれかの部会に所属する中で、全体研修や運営補助の研修、研究を行うことで、宇治田原町の小中一貫教育を進めてきているところでございます。

1枚戻っていただきます。学園の取組ということでございます。

①の全体研修でございますけれども、1年を通じまして研修会を開催し、特に夏季休業期間中の8月4日には町職員夏季研修といたしまして、各部会の研修テーマを全職員が合同で実行をしております。

まちづくり研修では、町職員のふるさと納税を通じてのまちづくりに対する強い思いを語ってもらい、教職員に宇治田原をさらに知ってもらう取組となりました。

小中一貫部会では、企画会議といたしまして、基本的に月に1回開催し、全体の進め方について協議を行ってまいりました。

裏面のほうになります。具体的な取組でございますけれども、(1)から(5)までを記載しております。

施設一体型を前提とした研修ではございませんけれども、現在の分離型の9年間を見通した中で、町が定める育てたい子ども像の実現に向け、町、小・中学校、教育委員会が様々な取組を行っているところでございます。

資料の説明につきましては、以上でございます。

○青山課長 ありがとうございます。

ただいま今年度の教育委員会の取組、あと、担当ということで維孝館学園の小中一貫教育の取組ということでご説明をさせていただきました。これらにつきまして委員の方々、何かご意見等ございましたら、よろしくお願いいたしたいと思っております。

どうぞ、川崎委員さん。

○川崎委員 失礼します。

中学校3年生が卒業しましたけれども、その3年間、コロナ禍でいろんな制約のある中での教育活動だったわけです。学校のほうでマスクの着用、手洗い、消毒の徹底とか、いろいろ今までになかったことをしながら、こういういろんな取組をしていただいたと、非常にありがたいことだなと思っております。

特にコロナ禍で子ども同士の直接的な対話といいますか、その様な学びはなかなかできない。当たり前のことが当たり前にできないような状況を強いられたわけですけれども、その中でマスクをしていると、なかなか子どもの表情も分かりにくい。先生と子どもの表情もつかみにくい。そんな状況の中でいろんな活動をしていただきました。

その中で、特にここに書いていただいていますけれども、豊かな学びの中で1番に、学習意欲の向上と、その中で特にICTを積極的に活用いただいた形で、ちょっとそういうことをご紹介させていただこうと思っておりますけれども、昨年度も今年度も我々教育委員のほうで、3小・中学校のほうを授業参観させていただきました。その中で、今年度特に感心させていただいたのは、先生のほうは電子黒板、デジタル教科書を使われているんだけど、子どもたちに一台一台タブレット端末をコロナ禍の中で施策として取り入れていただいたおかげで、特に1年生の子なんかを見ていたんですけれども、普通やったら、音楽で鍵盤ハーモニカを吹くんですけれども、それがなかなかできない。そんな状況でも、このタブレットにきちっとそれをぱっぱと子どもは映し出すんですね。そうしたら、その音、ピアノやったらピアノの音をかけるわけです。それも音楽の授業をしていたのを見まして、こういうやり方もできるんやなど。物すごく有効な活用をしていたんですね。去年見せていただいたのと比べたら、その活用の技術というんですか、それがもう数段上達してしまっていて、それにはまさに先生方も非常に努力いただいたと思

うんですけれども、子どもらもやっぱり、さすが今の子どもたちはそういうので、デジタル対応の活用がスムーズにできているなど。高学年の子なんかは、そのタブレットの中にそれぞれいろんな子どもの考えなんかも映し出せるんです、黒板にわざわざ書かなくても。それによって、ああ、あの人はこんなこと考えてる、自分と同じ考えなのか、ちょっと違うのか、そういう学習をしていただいたことによって、子どもらは非常に魅力ある授業が展開できていたの違うかなというふうに見せていただきました。

以上でございます。

○西谷町長　ますます先生、これからはそういう活動が増えていくし、それが社会に出たら、オンラインになっていくという状況でして、例えば幼稚園とか保育園ぐらいの子どもさんでも、もうスマホを使えるという、そういう時代になってきているし、うちの孫でも今、下の子やったら2歳ぐらいやけれども、スマホで漫画みたいなのを勝手にしますからね。やっぱりもうそういう時代やなというふうなことは思いますけれども、これからの時代はそういうのを使いこなせへんかったら、仕事もできへんし、生きていけへんという、そういう時代にはなるけれども、ただやっぱりそういう人とのつながりとか関係とか、これもやっぱり大事にしていかなあかんというふうにはやっぱり思いますけれどもね。

○川崎委員　活用と裏表なんですけれども、情報モラルというんですか、マナーとか、そこはまたきちっと指導していかならん部分やなと思うんですが、なかなか見えにくい部分ですので。それと授業の中でも、ICTはいろいろと活用するのは大事なんですけど、やっぱりそれと今までやってきた黒板とかも使いながら、先生と子どもたちのやり取り、そこもやっぱり大事にしていきたいなというふうに思います。

○西谷町長　先生もいろんな興味を持って、いろんな知識がそこでもう簡単に手に入って、学校にも出てくるという部分があるんですけれども、やっぱり例えば自分はこういうことを知りたい、知るためにどうしたらいいのかという、今やったら、それがあれば何でも出てきちゃうという、そしたら工夫とか、特別にこういうことを調べようと思ったら、こういうふうにするとか、こんな行動したらいいとかいうところ辺がだんだんなくなってくるというところ辺がちょっと怖いのかな、逆に。例えば地震が起きて停電したって、電気が使えない。それは電池を充電している間は使えますやろうけれども、そやけど、電波がWi-Fiが飛んでこないというふうな部分も発生したときに、何か起きたときの解決方法を自分でどうやったらどうなるという、そういう訓練がちょっと心配やなというふうなことはやっぱり思いますね。物すごい便利な反面、裏腹な部分があつて。

○青山課長 いかがでしょうか。今ございましたように、ICTということで、タブレットを使って学習、授業をするというようなお話がございました。その他、何かございませんでしょうか。

どうぞ。

○大嶋委員 ICTに戻ってしまいますけれども、子どもは自由にいろんな情報を伝えたり、また受け取ったりすることができるので、先ほどあったモラル、特に人権的なところがしっかりしておらないと、いじめにつながったりとか、そういうことがもうたくさん起こってくるやろうなというふうに思います。使っているのも、夜、こそっと使われたら、人間の感情というのは深夜と昼間とは全然違って、一人でいろんなことがエスカレートしてきて、そこでもうスマホがあれば、自然とそこにいろいろ出てくるわけですね。何も知らずにほかの人がぱっと見たら、いっぱい自分の意地悪が書かれたりとか、ほかの人みんなが知っているという状況の中で、いじめというのが見えるところで起こっていくだろうなど。ですから、人権とかモラルとかいうこともあるやろうし、そういうことを学校現場ではモラルとか、そんなところで十二分に指導していく方法はあるんですけども、個々については親子でもスマホをしながら、お互い研修しながら、学び合いながらやっていかならんところが大きいのかなというふうに思います。

ただ、コンピューターで言うと、やっどこまで来たかなと。宇治田原では平成3年に中学校のホームページが見れてやってきておりますし、それで割と山城管内でも早かったかなというふうに思っているんですけども、そのときには学校によって40台ぐらいしかないという状況なので、今はもう生徒数ですか、一人一台ですから、それも簡単にいろんなことをやり取りできる。だからこそ怖いということなので、簡単に校外へ出れるというところがあって、後で取り返しのつかない状況が起こってくるということで、そういう面では本当に気をつけておかなければならないし、逆に、最近は本当に子どもでも、簡単に今、ゲームみたいなのを、市販のゲームに近いようなものをつくることもできますし、ですからそういう面でいくと、本当に今まででは考えられないような力を発揮することができるような環境にあるなというふうに思います。

それと、先ほどの教育委員会の中でも話したんですけども、この辺のところを使いながら、不登校であったり、いろんなところで指導に使えないかなと。オンライン授業とかで勉強したとか、それからまたお互いの気持ちを交流するようとか、その辺のところでは使える幅が広がっていくだろうなというふうには思うんですけども、ただ単に学校がほんたら、これを教師がやるのかということですね。例えばカウンセラーであっ

たり、そういうような指導者がそういうものでいろいろなアドバイスを出しながらやっていくと、安定するというか、継続した指導ができるのかなというふうに思います。

以上でございます。

○青山課長 ありがとうございます。

よろしいですか。

どうぞ。

○播磨委員 時事ネタになりますけれども、WBCで日本が熱狂して、大谷さんのすばらしい活躍で、あれを見て野球をしたいなという子どもがいっぱい増えたと思うんですけども、この前、卒業式でもBBのユニホームを着て出席している子なんかもいましたけれども、かといって今度中学校やったら、野球部がないのが現状、また違うところの遠いところに活動しに行かないといけないというところがあって、私らクラブ活動を小・中、一生懸命やってきた者としたら、選択枠が中学校も少なくなってきた、1チームつukれないという現状が今ある中で、これは宇治田原町に限らないですけども、どうにか人を宇治田原に来てもらって、増えないかもしれないですけども、魅力ある町、来てもらう町にしてもらいたいなというふうに思いますけれども、かといって空き家が増えていて、そこに全然知らん誰かが土地を買って、買ったままになっているみたいな日本の現状もあるわけですけども、何とか宇治田原が魅力ある町で、人が来てもらえるような町、集まってきてくれる町になってほしいなと思っております。

○西谷町長 今、委員ご指摘のように、何か出生数が50人を切っているという状況、大体8,800人ぐらいで、そのうちの400人ぐらいが外国人、そのうちの半分がベトナムの方というふうな状況になっていますけれども、いろんな施策の中に、やっぱり移住・定住、また重ねて子育て支援という形で、あるいはそういう部分を発信しながら、できるだけこっちに来ていただけるような努力は今後も続けてまいりたいというふうに思いますし、令和6年に新名神が開通になって、また町の様相が変わってくる中で、どういうふうになっていくのかなというところもやっぱり迷いますし、小・中学校でも単学級が増えてきているというふうなところもありますし、今後のまちづくりに左右されてくるのかなという、大変重要な時期がここ5年から10年の間には来るのかなというふうに思いますけれども、最善の努力をしていきたいというふうに思っております。

○奥村教育長 今、播磨委員がおっしゃったことで、クラブ活動で私らの行った頃は、全クラブがあって、どこに入ってもいいというようなことやったんですけども、私がここに来させてもうた時点で、野球部の部員が2人でして、泉ヶ丘中学校と一緒になっ

て大会に出ていたということやったんです。それもできなくなって、サッカーもない、ソフトボールもできないということで、今、町長がおっしゃいましたように、将来的に人口が増えて、生徒も増えて、いろんな部活ができるような、そういう時代になったらいいなというふうなことで、やはり定住対策も必要かなというふうに思います。

○青山課長 ただいま、移住・定住というか、地域で暮らすというのは大事ということであると感じておられると思うんですけども、なかなかそこはうまくいかないところでもございますけれども、その辺で何かお気づきの点がありましたら、ご意見を願います。

○西谷町長 起爆剤、なかなか難しいと思います。京田辺とか、それから木津川市は、今どんどん増えているという状況やし、特に木津川市の木津高の地区ではすごい団地ができていて、子どもの数もすごい増えてますけれども、ただ、あれが20年後にやはり来るから、これはまた大変なことが起きそうな気はしますけれども、そんなんの繰り返しはもうずっと来るのかなというところやけれども、ただやっぱり日本国全体が人口が減っているのは間違いないので、そうすると、国の施策としてやっぱり子どもに対する予算額を倍増ということはおっしゃっておりますけれども、その中でやっぱりできるだけ子育てに関する経済的支援、これをやっぱり負担を軽くするというのが最大限の目標にはなっているんですけども、これからその施策がどういうふうにはんまに生きてくるのかなというのは私自身も今分かりませんが、それはやっぱり魅力ある町という中で、教育も一つの魅力になっていくのは間違いないと思いますので、ですから学校の教育環境、これについてもできるだけ充実はさせていきたいし、やっぱり先端技術、これもプログラミングそういう子どもたちの知識を得られるようにということで、特にふるさと納税につきましては、子どもたちに特化した財源として使うと。ほかには使いませんということで今取り組んでいるわけがございますけれども、そんなんも一つの町の魅力にはなってくれたらいいなと思うので、一生懸命今発信しておるところでございます。

○青山課長 杉野さん、どうですか、何かございますか。

○杉野委員 先日なんですけれども、小学校の卒業式に出させていただいて、すごくきらきらした子どもたち、素直に育っているなという表情が印象的でした。

中学校の卒業式も出させていただいたら、こちらの宇治田原町の育てたい子ども像のように誇りを持ってしっかり自立していこうという、9年間の集大成の自信を持って卒業していく姿が見れて、非常に安心したところです。

ここで町長に1つお聞きしたいのが、育てたい子ども像というのは全て大切なことなんですけれども、この中で特にこれをもっと頑張ってもらいたいなと思えるところはございますでしょうか。

○西谷町長 頑張っている、みんな頑張ってくれてはると思っておりますけれども、学力とかいうような部分を、もう少し京都府平均から、全国平均レベルよりは何ぼか上になるように頑張ってもらいたいなというふうに思います。そういう学校の環境の、こういうパンフレット一つにしても何にしても、英語の検定にしても、ある程度全力で支援しているつもりなので、やっぱりそういうところで頑張ってもらいたいなというふうに思うんですけれども、これはやっぱり学校だけの、先生方だけの責任じゃなくて、やっぱり家庭教育が、学校を離れてからどうやねんということも大きく僕は左右しているというふうに思うんですけれども、いろんなこと、ああでもないこうでもない、試行錯誤していかなあかんのかもしれへんけれども、なかなかこれやからこうやねんというところから見つからへん。その辺は難しいんですけれども、小学校にしても中学校にしても、物すごく学力レベルが高いなと言ってもらいたいなというのが僕の希望でございます。

以上でございます。

○杉野委員 ありがとうございます。

○青山課長 その他、何か皆さんございますでしょうか。

○大嶋委員 1つだけ。先ほど出ていたのと同じことなんですけれども、大変危機感を持っているのは、子どもの出生率です。この1年間の中でどこかの月がゼロ人ということが新聞報道されていたように思うんですけれども、本当に以前から比べたら減ってきているなど。僕が知っている間でも、中学校は3クラスぐらいでした。時に4クラスというのも出てきている状況。今、中学校は2クラスというようなところで、今年の卒業生で言うたら56人ですか。修学旅行に行ったとのことでした。昔で言うたら、これ2クラスなんです。40・40の80人までやったら、2クラスだったんですね。それを少人数学級でして、2つとか3つにしているわけで、80を超えない限りは3クラスに戻らないということですね。だから、そのためにどうするのかということやと思います。今の出生率から数えると、維孝館が3クラスになることはないと考えべきなのか。何かしていかないと、本当に魅力やったら魅力で、何で魅力をつくるのかというのを本当に考えていかないと、もう2クラスで、開校当初は5クラスとかいうのを聞いたことがありますね。

よくお年寄りの人が言っている、そういう中で授業をしたとか、木造校舎の中で1ク

ラス50人とかおったでとかいうようなこと、こういう中で本当にたくさんの方がいはるし、たくさんの方が高齢者でいはるわけですね。ところが、今言うたように、子どもは少ない。普通やったら、宇治田原のよさを知って残っていくはずなんですね。ところが、やっぱり外へ出て行って帰ってこないといえますか、そういう状況があるのかなと思ったりもして、何を魅力として何をつくるのかということだと。

子どもはやっぱり、魅力っておかしいですけども、成人式的时候はほぼ皆帰ってくるんですね。ほかに比べたら、ずっと出席率はいいし、その後同窓会をしたりしていますね。だから、何かの魅力は感じてはいるんですけども、帰って住んでいる人がおるか、少ない。何かその辺のところを改善していただいて、出生率を保っていかないと維持できへんのかな。今は2クラスできていますけれども、その先はもう1クラスかもしれせん。それくらいの危機感を持たないと、2クラスでも維持できない状況になっていくん違うか。もっといろんな改革の中でいろんな仕事をする場所ができていきますし、だからそこで就職もしていきながら、住んでいくということがあり得るのかなと思うんですけども、中には、住みながら町外からおったりもしますし、やっぱり何とか人口を増やすため、移住のあの辺の策を町は取っておられて、いい町やなということで住み着いておられる方もおられますけれども、やっぱりそういうなんをどんどん増やしていかなければならないし、そうするにはどうしたらええのか。

○西谷町長 これはなかなか難しい。

○大嶋委員 これは難しい問題やと思いますけれども。

○西谷町長 例えば子どもにアンケートを取ると、イオンがないとか、スターバックスがないとか、不便やとか、バスしかない、鉄道もない。もうないものばかりを挙げている。そういった中で、やっぱり中学校から高校を出て、そこから大学、就職、やっぱりあるところに住みたい。違うんでしょね。僕らはそれを阻止するために、やっぱりふるさと宇治田原はこんないい町よということを植え付けるように、植え付けるようにしている部分は努力はしているんですけども、いや、本当にその辺が難しいところやと思います。

ただ、やっぱりうちのまちづくり、これはやっぱりお茶の町という部分がありながら、やっぱり工業団地が今ありますし、これ第二、第三の工業団地へと何とかつくっていつて、そういった中で雇用の場所が生まれて、また町外から住んでもらって、そこで子どもを産み育ててもらって、やっぱりお茶の町の環境のいいところで子どもを大きくしてもらおうという、その状態になるようにという、今まだ駆け出しの状態ですよ、実際の

ところ。それが実現できるかできへんか、できるように努力はやっぱりしていくべきでありますし、うちのおふくろは奥山田なんですけれども、おふくろのときの奥山田小学校が150人か160人ぐらい、全校で。1年から6年まで。僕、写真見せてもうたことがあるんです。こんな奥山田にぎょうさんいはったって、僕ら、想像つかないんですけども、もう今は劇場になっちゃっているという状況で、やっぱりなかなか現実は厳しい。厳しい中でもやっぱり、まあ、言うたら、宇治田原って結構立地的には関西の中心であり、そこから新名神が通るエリアは、亀山のところに駅ができる。京都駅に行くより、亀山から行って、東京に行ったほうが早くなるとか、何かいろんな利便性はこれから向上はしてくる中で、やっぱり住みやすい、便利だ、若者に人気があるというところを試行錯誤で今、政策の中でも取り組んでおるという状況で、そやから両小学校が単学級に全部になってしまう。ほんな小中一貫どうすんのやという課題もありますけれども、その辺は本当に頑張っってまちづくりを進める中で、しっかりと取り組んでいきたいと。そうした中で税収を上げる中で、小中一貫教育の推進についてもシミュレーションをしっかりと立てられるという状況になるように、今、努力をしています。現実には飾りも何もしてない、ほんまにそういう状況ですというところですよ。

○青山課長 どうぞ。

○川崎委員 ありがとうございます。

今のお話を聞かせていただいて、行政としての立場についても実際そういうことやと思います。なかなか努力はしていかなんけれども、増やすというのも難しい部分があります。ただ、今いる子どもたち、恐らく追加で今、実質、分離型でやってはるんですけども、その子どもたち一人一人を大事にするという施策のほうもお願いしたいなと思っっているんです。教育関係の整備をぎょうさんやっただいています。さっき播磨さんからWBCの話が出ましたけれども、日本チームのベンチにごみ一つなかったいうて、世界から称賛されたということがニュースに出ていましたけれども、いろいろここに書いていただいているトイレの洋式化とか、改修工事とか、それからおいしい給食もそうやし、加配の先生なんかを増やしていただいたり、いろいろ施策していただいているその中で、それは町長部局のほうでやっただいていてるもので、それをどう活用するか。要は、これは教育委員会、また学校ですね。

さっきの話と関わりまして、やっぱりそういうことを子どもらにきちっと説明して、感謝の気持ちというんですか、心を込めて掃除をするとか、またそういういろんな関わっってくれてはる人に出会ったら、やっぱり自分のほうから挨拶するとか、そういう学力

向上と豊かな人間性というんですか、心を育てるといのは、これはもうイコールのものやと思いますので、ちょうどハートのまち、宇治田原町は出てくれてはるので、そういう気持ちの部分も大事にしていくというか、一人一人の子どもを大事にしていくということで、今やってもらっていることについては、もう学校でもそういうことをきちっと子どもたちに、大事に使う、物を大事にするということは、人も大事にすることやし、ひいては自分を大事にすることになると思います。一人一人を大事にする、そういう町になったら、ありがたいなというふうに思っております。

○西谷町長 今の社会情勢なり、これからの日本、世界の未来というのを見はったときに、今の若い方が結婚して、それで子どもさんを何人持ちたいという希望で、昔でしたら5人なんか当たり前であって、もう8人ぐらいまでごきょうだいがいる時代はありましたけれども、今ってほんまに1人いはるか、2人いはるか、もう3人いはったら、あつ、多いなと言わなあかんという、そやから、将来に向かってやっぱり不安という部分があつて、その部分でもう子どもを育てんねやったら、精いっぱいやし、1人にしとこうとか、もう2人までにしとこう、その辺のところを何とかぐっと変えられるような、それは別に各市町で変えられるん違つて、やっぱり僕、いつも国会議員さんに言うですけれども、子どもは全国どこで生まれても同じ条件で、同じように育てられるようにしてくれと。この町にこんな補助金がある、こんなんもらえるから、そこがええ、なかつたら、よそへ、そんな国では人口は絶対に増えへん。ただ、あつちの人がこつちに来てはるだけや。もうそんなんでは駄目。ほんまに抜本的に国で面倒見てくれと。そしたら、人口は少しずつ絶対増えるはずやと、僕はいつも言うんですけれども、子どもに対する予算倍増という中で、そこを生かしてくれはるか、生かしてくれはらへんか分からへんけれども、やっぱりそういう思いますわ、ほんまに。

ただ、心配するのは、親御さんが子どもを育てる責任、これが薄らいでもうたら駄目な部分があるんです。何でもかんでも社会が、国が面倒見よつて、私らはええねん、これが困るんですね。やっぱりその辺のところは大事に、親の責任としてやってもらわな。我々のときやったら、そんな無償なんかないじゃないですか、高校生の通学で。高校生、僕、中学校と6年間外へ通いましたけれども、全部出してもらっていたじゃないですか。それは我々が子どもを育てる時代になって苦労してもうたなというのは、もう実感できる。これは感謝です。こういうことが消えてしまわないようには何とかせなあかんという、そこら辺は思いますけれどもね。そこも大事なことやなと。

○青山課長 ありがとうございます。ほかによろしいですか。いかがでしょうか。よろし

いでしょうか。

○奥村教育長 皆さん、いろんな意見をたくさん出していただきまして、ありがとうございました。今日は令和4年度の教育委員会の取組ということで説明させていただきました。ここ数年は、この総合教育会議でどうしても小中一貫の一体型に関しての会議が主になっていたんですけれども、ご承知のように、この令和3年度に財政面であったり、またコロナ禍による社会情勢、そういったことを勘案しながら、6年度に設けました開校時期は延期するということになりました。

そのような中で、小中一貫につきましては、当然学力充実を中心にしまして、さらに進めていくということで、今その取組の一環を説明をさせていただきました。そういった中で、先ほどから委員さんの中にもありますように、GIGAスクールの一人一台のタブレットであったり、電子黒板、また町独自の教員の配置、家庭支援事業、また教員につきましても、そういった専門的な授業指導、こういったものは当然、トイレの洋式化もそうですし、町からの財源を教育に回していただいたということが大きなことでございましたので、今後、町長には、小・中9年間を見通した学力向上、また学校教育、社会教育、スポーツの振興、そういった面に対しまして、ふるさと納税の財源もそうですけれども、今後とも引き続き財政面で教育での支援をよろしく願いたいと思います。

○青山課長 ありがとうございます。

そしたら、1つ目ですけれども、教育委員会の取組について、特によろしいでしょうか。

それでは、この際ですので、2番目のその他ということで、忌憚のないご意見ございましたら、何でも結構でございますので、あれば、よろしいですか。

○西谷町長 ちょっといいか。

○青山課長 はい。

○西谷町長 ALTって、今お二人かな。

○黒川教育次長 2人です。

○西谷町長 僕、全然分からへんねんけれども、小学校も中学校も幼稚園も。

○黒川教育次長 幼稚園、保育園、保育所も。

○西谷町長 あっ、保育所も。

○黒川教育次長 はい。

○西谷町長 英語力というのは物すごく大事やから、何か今までやったら、町のいろんな行事と一緒に参加してくれてたやん。そやけれども、今ないから、全然若い人いないか

ら、来てくれはったときは、歓迎のときにお話しさせてもうたりしたけれども、分からへんけれども、これからだんだんいろんな、さくら福祉まつりにしても、そなん町の運動会とかもちゃんと今年はやはるやろうし、どんどんそういうなんにちょっと参加してもらえるように、もっと住民と交流を持ってもらうのは物すごくええことやないかなと思うので、ちょっと頼んだらどうや。

○青山課長 ありがとうございます。

ほか、特によろしいでしょうか。

そうしましたら、ないようでしたら、最後に西谷町長からまとめということをお願いしたいと思います。

○西谷町長 まとめというか、委員の皆さまとの意見交換も終わりました、大変ご苦労までございました。学力向上というのも大きなテーマであろうかというふうに思いますけれども、先日行われました小・中学校の卒業式でございますけれども、子どもたちを見ていると、本当に健やかに成長していっているという感じも受けましたし、みんなきちっとしているなという、そういう印象を受けました。これはやっぱりいろんな見守り隊とか、いろんな方の関わりに囲まれて、明るく育ってきているかなということで、雰囲気物すごくいい卒業式ができたなというふうに、私はそういう印象を持っております。町長部局として、トイレの洋式化やタブレットの整備等々、これからもいろんなことについては、環境整備についてはしっかりと子どもたちのために取り組んでいきたいというふうに思っておるところでございます。

また、懸案の小中一貫でございますけれども、今、施設は保留のままとしばらくはなりますけれども、そういった中でやっぱり先生同士の交流、これもしっかりと取り組んでいただいて、いつも小学校と中学校が一体なんだという、施設だけじゃなくて、そういうことで今後も取り組んでいただきたいというふうに思います。

ふるさと納税、うちの職員も一生懸命いろんな形で媒体、また新商品ということで、取りあえず稼ぐ言うたらおかしいですけども、増やすということに努力をしまして、それを子どもに還元していくというものが、大変僕も物すごく重きに置いておまして、さらにやっぱりそういう部分の財源を活用して、子どもたちのために使ってまいりたいというふうに思います。

コロナ禍ということで、いろんな行事ができないということで、社会教育の面においても、「人生100年」というふうに言われておるところでございますけれども、そういった中でやっぱり学習の場、みんなが集う場、これについてもこれから日常にだんだ

ん戻りつつあろうと思いますので、感染対策にはやっぱり気をつけていかなん中でも、いろんなことに積極的に取り組んでまいりたいというふうに思います。

京都府知事さんは安心の2期目ですけれども、ぬくもりのある京都ということで、子育て環境日本一ということで、今しっかりと取り組んでおられまして、子どもの医療費についても小学校まで上げていただきましたので、私どもは今まで中学校までやっておりましたけれども、来年度からは高校世代までということで拡充もさせていただいておるところでございます。

そういった中で子どもたちを育み支える教育委員会の役割は大変大きいと思いますので、今後とも引き続き町がしっかりと支援をしてまいりたいというふうに思いますので、今後ともご支援、またご協力、またご指導賜りますようによろしくお願いを申し上げまして、終わりのまとめになっていないと思いますけれども、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。ご苦労さまでした。

○青山課長 ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、総合教育会議を終了させていただきたいと思います。大変お疲れさまでした。どうもありがとうございました。